

九、其ノ他縣下商品ノ改良並販路擴張ニ必要ナル施設

第二章 出品及寄贈

第三條 本所ニ出品若ハ寄贈セムトスル者ハ別記書式ノ目錄並説明書ヲ差出シ本所ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 出品ハ賣品又ハ非賣品トス

第五條 左記ノ物品ハ出品若ハ寄贈スルコトヲ得ス

一、危険ノ虞アリト認ムルモノ

二、風俗壞亂ノ虞アリト認ムルモノ

三、衛生ニ妨害アリト認ムルモノ

四、他ノ物品ニ妨害アリト認ムルモノ

五、陳列ニ不適當ナリト認ムルモノ

第六條 第三條ノ承認ヲ得タル者ハ現品ニ入記目錄ヲ添ヘ本所ニ搬入スヘシ

第七條 出品物ニハ毎品番號、品名、數量、價格、產地及氏名ヲ記載シタル附札ヲ添付スヘシ

第八條 寄贈品若ハ出品物本所ニ到達シタルトキハ其ノ旨本人ニ通知ス

第九條 出品物ハ本所ノ都合ニ依リ陳列ヲ中止シ又ハ撤去交換ヲ爲サシムルコトアル

第十條 出品人ハ出品物ノ交換又ハ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 出品物ノ陳列及裝飾ハ本所之ヲ行フ但シ本所ノ承認ヲ得テ自費ヲ以テ特別ノ

陳列及裝飾ヲ施スコトヲ得

第十二條 出品物ノ荷造及運搬ニ要スル費用ハ出品人ノ負擔トス但シ必要ト認ムルトキ

ハ本所之ヲ負擔スルコトアルヘシ

第十三條 出品物ノ運送中ニ於ケル損害ニ對シテハ本所其ノ責ニ任セス

第十四條 出品物ノ賣代金ハ精算ノ上出品人ニ之ヲ交付ス

第十五條 出品物ハ本所ニ於テ相當ノ保護ヲ爲スヘシト雖水火盜難其ノ他避クヘカラサ

ル事故ニ因リ生シタル損害ハ本所其ノ責ニ任セス



第三章 陳列品及圖書ノ貸與分與

第十六條 本所備付ノ陳列品及圖書ノ貸與若ハ分與ヲ望ム者ハ本所ニ願出ツヘシ

第十七條 前條貸與ノ許可ヲ受ケタル者ハ別記様式ノ借用證ヲ差出シ同時ニ本所指定ノ

保證金ヲ納付スヘシ但シ其必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 前條ノ貸與期間ハ三十日以内トス但シ期間内ト雖本所ノ都合ニ依リ之ヲ返還

セシムルコトアルヘシ

第十九條 第十六條ノ分與品ハ本所指定ノ代金納入後之ヲ交付ス

第二十條 貸與品又ハ分與品ノ荷造及運搬ニ要スル費用ハ之ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十一條 貸與品ヲ紛失、毀損又ハ汚損シタルトキハ本所指定ノ價格ヲ辨償セシム但

シ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四章 調査及紹介

第二十二條 商品ニ關スル質疑、調査、研究及商取引ノ紹介又ハ商品ノ縣外若ハ海外試

賣ヲ依頼セムトスル者ハ其ノ旨本所ニ申出ツヘシ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ特ニ經費ヲ要スルモノハ之ヲ徵收ス

第五章 圖按調製

第二十四條 本所ニ圖按ノ調製ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル依頼書ヲ差出スヘシ

一、圖按ノ種類、色彩、大サ

二、圖按ヲ適用スヘキ物品ノ名稱、品質、色彩、形狀、大サ、用途、價格及需用地

三、圖按ニ記入ヲ要スヘキ文字、記號、紋章及其ノ他必要ナル事項

四、其ノ他調製上參考トナルヘキ事項

第二十五條 圖按ハ無料ニテ之ヲ交付ス但シ調製上必要ナル材料ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第二十六條 圖按ハ特ニ必要アリト認ムルモノノ外同時ニ二種以上ヲ調製セス

第二十七條 圖按ノ調製上必要アリト認ムルトキハ之ヲ應用スヘキ物品ヲ提供セシムルコトアルヘシ

前項物品ノ荷造及運搬ニ要スル費用ハ依頼者ノ負擔トス

第二十八條 前條ノ物品ハ相當ノ保護ヲ爲スヘシト雖紛失、毀損等ニ對シテハ本所其ノ

責ニ任セス



第六章 講話及巡回陳列

第二十九條 講話及巡回陳列ヲ欲スル者ハ其ノ旨本所ニ申出ツヘシ  
第三十條 前條ノ場合ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ本所ニ於テ全部又ハ一部ヲ支辨スルコトアルヘシ

第三十一條 巡回陳列品ノ取扱ニ關シテハ第十七條及第二十一條ヲ準用ス

第七章 觀覽

第三十二條 本所陳列品ノ觀覽及圖書ノ閱覽ハ無料トス

第三十三條 觀覽者又ハ閱覽者ハ觀覽者心得若ハ閱覽者心得其ノ他ノ揭示ヲ遵守スヘシ

第三十四條 本所ノ觀覽時間左ノ如シ但シ本所ノ都合ニ依リ之ヲ伸縮シ若ハ一時觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

自一月四日 至四月三十日

自五月一日 至九月三十日

自十月一日 至十二月二十八日

午前九時ヨリ午後四時マテ  
午前八時ヨリ午後四時マテ  
午前九時ヨリ午後四時マテ

自一月一日 至同月三日、紀元節、天長節、天長節祝日、毎月末日

自十二月二十九日 至同月三十一日

附則

第三十六條 本規程ハ公布ノ月日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

出品目錄

番	號	品	名	數	量	單	價	小	計	賣品又ハ非	備	考
計										賣品ノ區別		

右貴所規則ヲ遵守シ出品(寄贈)致度候間承認相成度候也  
住所職業  
氏名  
年 月 日  
新瀨縣商品陳列所長氏名宛



出品説明書

品名  
用途  
産地及製産者  
一ケ年産額  
主ナル販路  
商號及商標  
電話番號  
振替貯金口座  
支店又ハ出張所所在地  
工場及職工數並工場所在地  
營業沿革  
博覽會共進會等ニ於ケル受賞  
其ノ他取引上必要ナル事項  
右ノ通ニ候也

年月日

住所職業

名印

借用證書

品名	數	量	價	格

右參考トシテ本日ヨリ向フ何日間保證金(若干)ヲ提供シ借用致度候ニ付テハ期限  
内ト雖御示達次第何時ニテモ返納可致萬一亡失毀損致候場合ハ御指圖ニ基キ其ノ  
損害額ヲ賠償致スヘク候也

年月日

新潟縣商品陳列所長氏名宛

住所職業

名印

二、本所ノ職制  
第一條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長  
主事



技師  
主事補  
技手

所長ハ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第一條 所長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ統理ス

所長事故アルトキハ上席職員其ノ事務ヲ代理ス

第三條 主事ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

技師ハ所長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

主事補ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

技手ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ニ従事ス

第四條 本所ハ所務ノ必要ニ應シ商議員、技藝員、調査員、通信員及其ノ他ノ囑託員

ヲ置ク

附 則

第五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三、本所ノ會場貸與規程

第一條 新潟縣商品陳列所本館各室ハ實業、教育、慈善其ノ他公益ニ關スル集會又ハ

事業ニ限リ之ヲ貸與ス但シ都合ニ依リ貸與ヲ取消シ又ハ貸與セサルコトアルヘシ

第二條 貸與ヲ請ハントスル者ハ左記事項ヲ記載シタル申込書ヲ所長ニ差出シ許可ヲ

受クヘシ

一、使用ノ日時

二、使用會場名

三、使用ノ目的及方法

四、入場豫定人員

五、貸與ヲ請ハムトスル器具及其ノ員數

六、責任者ノ職業及住所氏名

第三條 貸與スヘキ時間ハ開所時ヨリ午後十時迄トス但シ時間外ニ使用セムトスル者

ハ其ノ事由ヲ申出テ所長ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 本館備付ノ器具ハ無料ヲ以テ之ヲ貸與ス但シ點燈ニ要スル費用ハ借受者ノ負



担トス

第五條 借受者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一、使用許可ヲ得サル室ニ立入ルヘカラス
  - 二、泥靴又ハ下駄履キノ儘各室ニ出入スヘカラス
  - 三、唾壺以外ニ痰唾ヲ吐キ又ハ床上ニ煙草吸殻ヲ棄ツヘカラス
  - 四、紙、釘、糊塗其他建物ニ汚損又ハ毀損ヲ生スヘキ虞アル場合ニ於テハ其旨所長ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ
  - 五、電燈以外ノ燈火ヲ用ウルヘカラス但シ止ムヲ得サル事由アルトキハ所長ノ承認ヲ受クヘシ
  - 六、使用後ノ各室ハ借受者之ヲ清掃スヘシ
  - 七、貸與器具ハ使用後所長指定ノ場所ニ整頓シ置クヘシ
- 第六條 會場備付品若クハ特ニ貸與シタル物件ヲ汚損、毀損又ハ紛失シタルトキハ借受者ハ所長ノ指定ニ從ヒ之ヲ賠償スヘシ
- 第七條 會場使用中ト雖都合ニ依リ又ハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ハ其ノ使用

一九〇

ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

第八條 前條ノ場合ニ於テ借受者ノ受ケタル損害ハ其ノ責ニ任セス

附 則

第九條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四、本所ノ會場使用料徴收規程

第一條 新潟縣商品陳列所會場貸與規程第二條ニ依リ使用許可ヲ受ケタル者ハ使用料ヲ納付スヘシ

第二條 使用料ハ左ノ區別ニ依リ知事之ヲ定ム但シ場合ニ依リ減免スルコトアルヘシ

階 上 一日金五圓以上

階 下 一日金參圓以上

第三條 既納ノ使用料ハ事由ノ何タルヲ問ハス之ヲ還付セス但シ本所ノ都合ニ依リ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第四條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一九一



五、本所の敷地、建物

本所構内の廣袤二千八百九十坪建物は明治三十四年の建築にして第一號館は參考品の陳列場第二號館は販賣品の陳列場に本館は集會場に充てつゝあり又構内に天然瓦斯井あり之を利用して晝間は燃料に供し夜間は點燈に用ふ今建物の主なるものを擧ぐれば左の如し

本館	第一號館	第二號館	事務所	守衛詰所	消防具置場	物置屋	東屋
一六五坪	一六五坪	三六六坪	一〇七坪	六坪	六坪	二一坪	三七、五坪
(石 磐 葺 洋 造)	(石 磐 葺 洋 造)	(亞 鉛 板 葺 和 造)	(同)	(同)	(同)	(亞 鉛 板 葺 和 造)	(和 造)

六、本所の經常費

商 品 陳 列 所 費	(一)	(二)	(三)
俸 給	雜 給	守 衛 給	看 守 人 給
三三、四八五圓	五、七八〇圓	八、二六四圓	八、一六圓
		二、七六〇圓	六、四八圓
		六、二四圓	一、六八圓
		八、三一圓	一、五〇圓
		五〇圓	二、二一七圓
			四、一八一圓

(十二年度)



(六)	(五)	(四)	備	消	文	印	通	諸	賄	被	雜	賞	修	常	指	小
			品	品	具	刷	運	會	服				繕	修	修	檜
			費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費
			六三二圓	八九八圓	一四圓	三七七圓	三三二圓	一、五〇〇圓	九六圓	一一三圓	二二〇圓	二二八圓	二、六三八圓	六一九圓	二、〇一九圓	九、八二〇圓

(八)(七)	村	上	支	所	費	二、五七四圓	長谷川 錦之允
	特別會計作業資金					六、二七七圓	野本 正 治
	七、本所の職員						藤卷 清 次郎
	所 長						前 田 祐 藏
	調 査 係						若 槻 覺 知
	小樽支所勤務						阿 部 稻 城
	小樽支所勤務						角 田 遼 七
	陳 列 係						東 久 松
	會 計 係						同
	庶 務 係						同
	村上支所勤務						同
	守 衛						同
	看 守 人						同
	園 丁						同



給仕  
小使

八、小樽支所

一  
二  
名 名

一九六

北海道は從來本縣物産の好得意たりしに拘らず地理の遠隔にして事情の通せざるに加ふるに他府縣の競争激甚なるが爲め近年動もすれば退嬰の傾向なしとせず本所は之に對抗して販路の維持擴張を圖らむが爲め大正七年六月より其中央市場たる小樽區に出張所を設け新潟縣物産振興會施設の新潟縣物産紹介所と相提携して事業を開始せり大正十二年より小樽支所と改名す

九、村上支所

村上町の岩船郡物産陳列館は大正十二年四月一日より本所支所となれり

十、本所出品協會

本所出品人全体より成れる出品協會の規約及役員を擧ぐれば左の如し

出品協會規約

第一條 本會ハ新潟縣商品陳列所出品協會ト稱シ新潟縣商品陳列所出品人ヲ以テ組織

ス

第二條 本會ハ新潟縣商品陳列所内ニ設置ス

第三條 本會ハ新潟縣商品陳列所ノ事業ヲ翼賛シ併セテ會員ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ目的

トス

第四條 本會ノ業務ハ左ノ如シ

一、新潟縣商品陳列所出品物ノ廣告紹介並ニ販路擴張ニ關スルコト

二、各種品評會展覽會等ノ開催又ハ其出品ノ斡旋ニ關スルコト

三、新潟縣商品陳列所出品物及賣上代金ノ取扱ニ關スルコト

四、出品物ノ裝飾ニ關スルコト

五、來觀人誘致ノ方法ヲ講スルコト

六、其他會員ニ裨益アリト認ムル事項

第五條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ支辨スルモノトス

一、會員出品物賣上高ノ百分ノ五

二、寄附金



第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長 一名
- 一、副會長 一名
- 一、幹事 若干名
- 一、委員 若干名

會長ハ新潟縣商品陳列所長ニ囑託シ副會長幹事及委員ハ新潟縣商品陳列所職員及會員中ヨリ推薦ス

但委員ハ前項以外ヨリ推薦スルコトヲ得

第七條 副會長、幹事、委員ノ任期ハ二ケ年トス

第八條 會長ハ會務ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス、幹事ハ常務ヲ掌理シ、委員ハ會長ノ諮問ニ應ジ、重要事項ヲ評決シ隨時會務ヲ補佐スルモノトス

第九條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク  
顧問ハ委員會ノ決議ヲ以テ推薦ス

第十條 本會ニ書記若干名ヲ置ク

書記ハ會長之ヲ任免ス

第十一條 役員ハ總テ無報酬トス

第十二條 本會ノ收入金ハ委員會ニ於テ確實ト認ムル銀行ニ預入スルモノトス

第十三條 本會ノ會務狀況並ニ收支決算ハ毎年一回之ヲ會員ニ報告スルモノトス

第十四條 本會規約ノ變更ハ委員會ノ議決ヲ經ルモノトス

以上

役員氏名

(大正十年六月改選)

會長	長谷川 鋼之充	副會長	安藤 文祐	幹事	牧野信三郎
幹事	小黒喜三郎	幹事	竹野金平	同	佐藤長藏
同	仁木茂平	同	野澤良造	同	新居清三郎
同	野本正治	委員	大井猪之松	委員	高木金資
委員	加藤勝太郎	同	石橋彌藏	同	薄田幸一郎
同	小林又次郎	同	大黒善太郎	同	風間要吉



同	新瀨製菓株式會社	同	蒲田定四郎	同	白井惣七
同	山口喜助	同	田中吉太郎	同	小島久七
同	小池貞三郎	同	水上伊三郎	同	白倉七太郎
同	涌井多四郎	同	小川駒吉	同	青木佐太郎
同	今井寅作	同	松山松藏	同	佐野幸七
同	本田甚衛	同	吉川新吉	同	關口清七
同	藤田榮次郎	同	塚野國松	同	佐野庄七
同	關真次郎	同	根津萬吉	同	西脇新次郎
同	大崎民藏	同	今井利吉	同	池野忠吉
同	中山長治平	同	松木喜之七	同	岸庄七
同	高橋孫左衛門	同	玉川覺平	同	大武健吉
同	井上才藏	同	細野捨次郎	同	岩崎又造
同	小杉祐次郎	同	鹽澤商會	同	小山金平
同	本間琢齊	同	三浦常山	同	小田長四郎

二〇〇

十一

本所普通事務一覽表

(其一)

同	川上善兵衛	同	吉田龜壽	同	加藤倂治			
同	小林武	同	田村正	同	鶴卷龜太郎			
同	市川謙太郎	同	齋藤文治	同	根本正七			
同	吉川新次	同	若槻覺知	同	阿部稻城			
同	角田遼七	同	石附榮一	同				
年次	開館日數	觀覽人員	圖書閱覽冊數	受發文書數	受發荷物數	調查研究數	頁疑取	紹介數
明治三十五年	二五	五、七六	一	一	一	一	一	一
同 三十六年	三三〇	四三、〇五一	一	一	一	一	一	一
同 三十七年	三四二	五三、三八	一	一	一	一	一	一
同 三十八年	三六一	二〇三、〇一九	一	一	一	一	一	一
同 三十九年	三五八	一八〇、六八	一	一	一	一	一	一
同 四十年	三五九	九、九三	一	一	一	一	一	一

二〇一



年次	參考品 貨與點數	參考品 回覽回數	參考品 陳列回數	講話 回數	審查 回數	圖 製數	圖案 會數
明治三十九年	六						
同 四十年	三〇五						
同 四十一年	七〇						
同 四十二年	三						
同 四十三年	四						
同 四十四年	三						
大正 元年	五						
同 二年	一、九						
同 三年	五						
同 四年	一、五						
同 五年	四、六						

本所普通事務一覽表 (其ノ二)

同 四十一年	三六二	九、八五三	!							
同 四十二年	三六一	一〇二、八九〇	六六一							
同 四十三年	三六一	一四、六六九	六五五							
同 四十四年	三六一	一五八、四八五	四七							
大正 元年	三六〇	一四六、一五二	九〇四	三、九七〇						
同 二年	三五三	一六七、六七	三八八	二、七九						
同 三年	三五八	一四九、二四三	三八七	三、三一						
同 四年	二五九	一六三、八九	四〇四	四、〇〇四						
同 五年	三六〇	一七、〇四五	二、五四	三、七二						
同 六年	三六一	二四〇、六四七	一、〇九六	四、六八四						
同 七年	三六〇	一九九、八一四	一、二三	三、九〇〇						
同 八年	三五八	二〇八、九四八	一、〇六七	四、四二八						
同 九年	三五九	二五三、〇四	一、二一〇	五、三六二						
同 十年	三五三	二八三、〇七〇	一、三七七	六、〇三七						
同 十一年	三五三	二八三、〇七〇	一、三七七	六、〇三七						

11011

11011



同	六	年	二五	二	三	二	二〇四	七	一、五二	九
同	七	年	一五	五	二	六	六	一、三四〇	六	〇
同	八	年	一六	五	二	五	五	九二	六	〇
同	九	年	一四	八	三	七	七	六四八	二	〇
同	十	年	一六	〇	三	三	五	五〇	三	〇
<p>十二 本所經費豫算一覽表</p>										
明治三十四年度			七五六、四二三							
同	三十五年度		七、五八三、三二六							
同	三十六年度		七、〇四〇、九八〇							
同	三十七年度		三、八一二、四八〇							
同	三十八年度		三、六七二、二〇〇							
同	三十九年度		四、八五九、五九〇							
同	四十年度		九、二三一、〇二〇							
同	四十一年度		九、五八三、六七〇							

同	四十二年度		九、八一八、〇〇〇							
同	四十三年度		三、〇九〇、〇〇〇							
同	四十四年度		六、〇六〇、〇〇〇							
大正元年度			六、八二〇、〇〇〇							
同	二年度		一〇、一六六、〇〇〇							
同	三年度		一〇、〇二一、〇〇〇							
同	四年度		一一、〇七三、〇〇〇							
同	五年度		一〇、八七六、〇〇〇							
同	六年度		一〇、八六七、〇〇〇							
同	七年度		九、七七三、〇〇〇							
同	八年度		一六、七九四、〇〇〇							
同	九年度		一三、二五四、〇〇〇							
同	十年度		二三、六二三、〇〇〇							



十三、參考品ノ現在高

(大正十年末調)

二〇六

種類	數量	價額
購入品	三、五九六	三、四九一、〇三四
寄贈品	一、〇七三	二、五八四、九二六
委託品	七二七	七三、八五二
合計	一四、三六六	三、四、七九、八〇一

(六) 創立二十周年記念式と記念事業

記念式

本品は前述の如く縣下産業の改善發達を圖るべき機關として明治卅五年に創立せられ爾來二十星霜我が新潟縣の商工界に對し直接間接に及ぼしたるの效果決して尠からず是を以て大正十一年六月四日の吉辰を卜し本館樓上に於て午前九時より記念式を舉行せり當日は特に農商務省商品陳列館長の臨席を乞ひたりしが差支ありて同省技師青木利三郎氏代理出席せらる、尙ほ來賓としては太田知事、和田内務部長、倉石衆議院議員、金子

富山市商品陳列所長、新潟市長、縣會市會各議員、新潟商業會議所副會頭、縣下諸官衙長、學校長新聞記者等無慮百名外に出品協會員約百名出席頗る盛況を極めたり、當日式典に於ける知事訓辭、所長式辭、來賓祝辭及祝電左の如し

訓辭

商品陳列所設置以來年ヲ閱スルコト正ニ二十年茲ニ本日ヲ以テ之カ記念式ヲ舉行スルニ至リタルハ欣快トスル所ナリ言フマテモナク世運ノ進展ニハ時々盛衰アリ産業ノ經營ニモ亦自ラ消長アルハ是レ免レサル所ニシテ本所カ其ノ間ニ處シテ克ク機宜ノ施設ヲ誤ラス終始助長啓發ニ力ヲ悉シタルハ地方産業ノ開發ニ貢獻スル所尠カラサリシヲ認ム

惟フニ本縣ハ土地廣濶ニシテ天然ノ資源ニ富ミ各種工産品ノ稱スヘキモノ亦少カラスト雖其ノ位置北陸ノ僻陬ニ在ルカ爲動モスレハ文化ノ進連ニ後レ産業ノ組織經營ニ於テ完カラサルモノアリ常ニ中央市場ニ一籌ヲ輸スルノ感アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ是レ固ヨリ地形ノ然ラシムル所亦已ムヲ得サルモノナキニ非スト雖之カ改善ニ付テハ特ニ本所ノ活動ニ俟ツヘキモノ多キヲ認ム職員諸子夫レ能ク意ヲ此所ニ致シ本日ノ記



念式ヲ機トシ更ニ本所事業ノ革新ヲ圖リ汎ク内外ノ情勢ニ鑑ミ一面地方ノ實況ヲ察シ  
適切ナル施設ヲ進メ以テ益々本所ノ利用ヲ増進セムコトヲ期セヨ

一言シテ訓辭トス

大正十一年六月四日

式 辭

本所創立二十周年ニ相當シ茲ニ其記念ノ式典ヲ舉行スルニ方リ貴賓各位多數ノ臨場ヲ  
忝フセルハ本所ノ深ク光榮トシ感謝措ク能ハサル所ナリ之ヲ創立當時ノ狀態ニ顧レハ  
本所ニ對スル注意至テ薄ク隨テ只地方物産ヲ蒐集陳列シテ即賣シ縱覽セシムルニ過キ  
サルノ觀アリ其後時勢ノ推移ハ産業伸暢ノ急ヲ感セシムルト共ニ當業者トノ接觸亦頻  
繁トナリ縣産陳列ノ増加ハ勿論之ニ對スル競爭品及參考品ノ購入若クハ巡回陳列及回  
覽ノ企畫ノ如キ將タ又本縣物産ノ好得意地タル北海道ニ出張所ヲ設置シタルカ如キ常  
ニ當業者ノ顧問トシ協賛者トシテ啓沃扶掖ノ任ニ當リタルモノアリタリ幸ニシテ本所  
ノ趣旨目的世上ノ認識スル所トナリ大正十年ノ事業成績ニ至リテハ觀覽人員二十八萬

有餘ニ達シ販賣價額亦五萬貳千六百參拾七圓ニ上リ其他通商ノ紹介調査ニ圖案意匠ノ  
調製指示ニ本所ヲ利用シ信頼セムトスルモノ日ニ多カラムトスル而已ナラズ出品協會  
ノ常ニ本所トノ聯絡提擲ヲ失ハズ且今次ノ舉式ニ對シテ記念物ヲ贈與シテ慶福セラレ  
タルガ如キ共鳴合掌ノ實舉ガリ本所ノ深ク感喜スル所ナリ  
今キ世界戦後ノ列強ハ何レモ舉國一致シテ内益々堅實ナル産業ノ發達ヲ遂ケ外愈々販  
路ノ開拓ニ努メ以テ國富ノ増進ヲ期スヘキノ時ニ際シ本所ノ責任更ニ大ニ加ハレルモ  
ノアリ我輩職ニ之ニ從フ者本日ノ盛意ニ對シテ實ニ感謝措ク能ハヌ今後奮勵努力シテ  
違ハサラムコトヲ期スヘシ  
茲ニ卑見ヲ陳ヘテ式辭トス

大正十一年六月四日

新潟縣商品陳列所長 長谷川 謙之 允

祝 辭

新潟縣商品陳列所創立以來二十年ヲ閱シ本日ヲトシ其記念式ヲ舉行セルハ慶賀何ソ堪  
ヘン



願フニ既往二十年間ニ於ケル本縣產業ノ發達ハ頗ル顯著ニシテ之ヲ最近ノ事實ニ徴ス  
 ルモ大正五年ニ於テ壹億四千萬圓ノ生産額ハ大正九年ニ於テ實ニ參億八千萬圓ニ達セ  
 リ是レ固ヨリ縣民諸氏ガ斯業ノ進展ニ對シ奮勵努力ノ成果ナリト雖モ亦當陳列所ガ深  
 ク其ノ設立ノ趣旨ニ省ミ經營施設宜シキヲ得タルニ因ラスンハアラス今ヤ我邦ハ產業  
 ノ發展ニ國產ノ振興ニ將亦貿易ノ伸張ニ全力ヲ盡シテ奮闘セサル可カラサル時運ニ際  
 會シツツアルノ秋本縣ノ當業者ヲ指導啓發シ其歸嚮ヲ愆ラサシムルハ一ニ本所ノ活  
 動ニ俟タサルヲ得ス本所ノ任重且大ナリト謂フヘシ冀クハ今後一層設備ノ完整ト内容  
 ノ充實トヲ計リ本縣產業ノ發展ニ資スルト共ニ帝國ノ進運ニ貢獻セラレンコトヲ一言  
 以テ祝辭トナス

大正十一年六月四日

農商務省商品陳列館長

野

間

譽

雄

祝辭

新潟縣商品陳列所本日爰ニ創立記念ノ盛儀ヲ舉行セララル洵ニ慶賀ノ至ニ堪ヘス  
 願ミレハ本所創立以來年ヲ閱スル事茲ニ二十年此間時代ノ推移ニ伴ヒ本縣ノ產業年ト

共ニ發達シ商品ノ精緻亦大ニ見ル可キモノアルニ至レリ之レ職トシテ本所ノ指導誘接  
 其宜シキヲ得タルニ由フスンハアラス然リト雖モ國家富強ノ源泉タル產業ノ實力ハ未  
 タ世界ノ列強ト比シテ幾多遜色ナキニアラス冀クハ當路有識ノ士進取敢爲地方產業ノ  
 充實ヲ圖リ民福ノ増進ニ努メラレンコトヲ聊カ申見テ陳ヘテ祝辭ニ代フ

大正十一年六月四日

新潟市長

柴

崎

雪

次

祝辭

本所創立以來茲ニ二十年ヲ閱歴シ本日ヲ以テ其記念式ヲ舉行セラル洵ニ慶賀ニ堪ヘサ  
 ル也惟フニ此間ニ於ケル既往ノ推移ニ願ミレハ實ニ本縣產業ノ革進時代トモ稱スヘク  
 主要タル農業ニ至テハ米穀ニ對シテ検査制度ヲ實施シ以テ商品トシテノ價值向上ニ努  
 メ水力電氣ノ勃興ハ端ナク從來工業ノ組織改善ヲ促シテ止マサルモノアルト共ニ國家  
 的事業ノ企畫亦尠シトセス此ノ如クシテ地方斯業ノ將來ハ決シテ農業ノ發達ノミニ依  
 賴スヘカラサルノ秋ニ際會シ本所ノ施設活動ニ俟ツヘキコト年ト共ニ多カラムトス職  
 員並ニ當業者諸君冀クハ此名譽アル記念ヲ深銘シテ譲レヌ今後一層奮勵努力以テ改善



發達ノ機關タル任務ト利用ヲ完フシテ地方産業ノ伸暢ヲ圖リ國運隆昌ノ前途ニ貢獻セ  
ラレムコト至囑ニ堪ヘス一言シテ祝辭トス  
大正十一年六月四日

祝辭

新潟縣會議長

松本 木

新潟縣物産陳列所ハ本日ノ佳辰ヲトシ創立第二十周年記念ノ式ヲ舉ケラル慶賀スヘキ  
事共也  
夫レ物産陳列所カ産業ノ發達ヲ圖ル必要ナルコト猶産業ノ發達カ物産陳列所ヲ利用ス  
ルニ負フコト甚タ多キモノアルニ同シ蓋シ此二者ハ常ニ互ニ因ト爲リ果ト爲ルモノナ  
レハ物産ノ善化富力ノ増進ハ其根基實ニ此ニ在リト謂フヲ得ヘシ想フニ近時本所ヲ利  
用シ乃チ陳列品ノ觀覽ヲ請フテ彼我ノ情勢ヲ曉リ紹介ヲ求メテ販路ノ擴張ニ便シ將亦  
圖案意匠ノ範示ヲ冀ヘテ製法ノ改善ニ資スル等ノモノ年ヲ逐フテ滋キヲ加フルニ微ス  
ルハ本縣產業界カ今日ノ如キ旺盛ヲ示スニ至レル所以以テ窺知スルヲ得ヘク本所ノ之  
ニ對シテ過去二十年間貢獻セラレタル所ノモノ極テ大ナルコト亦以テ想像スルニ足ル

今ヤ歐洲ノ戰亂熄ミ次テ起ラムトシツ、アル產業界ノ競爭戰ハ各國共ニ利權ノ獲得ニ  
汲々トシテ狂奔熱走眞ニ悔ル可ラサルモノアルヲ覺ユ然レハ本縣產業モ亦一層其發達  
ヲ健全ニシ其基礎ヲ鞏固ニスルコト肝要ニシテ而シテ其之ヲ爲スニハ職員諸君ノ奮勵  
ヲ以テシテ以テ當業者ヲ鼓舞激發シ當業者亦其指示輔導ニ依リテ自他ノ長短ヲ考ヘ以  
テ技術ノ練磨經營ノ適正ヲ圖ルニ在ルヤ言ヲ待タス吾人ハ此意味ニ於テ本所ニ關係ヲ  
有セラル、各位ニ對シ爾今益力ヲ致シテ縣物産ノ聲價ヲ發揚シ併テ邦家ノ福利ヲ進展  
スルニ努メラレムコトヲ切望ス

不肖席末ニ列スルノ光榮ヲ得タルヲ欣ヒ聊カ所思ヲ述ヘテ祝辭トス  
大正十一年六月四日

新潟商業會議所副會頭

鈴木 久藏

祝辭

本所創立以來茲ニ二十年能ク其趣旨ヲ發揮シテ違ハス生産ノ改善統一ニ販路ノ開拓擴  
進ニ常ニ我輩當業者ヲ指導獎勵シテ其歸嚮ヲ誤ラサシメタルモノ實ニ是レ直接所務  
ニ執掌スル職員諸君ノ熱誠ト縣當局ノ指揮監督其宜キヲ得ルニ非レハ安ソ能ク此ニ至



ラムヤ今や戦後ニ於ケル世界ノ大勢ハ何レモ國力ノ充實ヲ産業ノ獨立ト貿易ノ展開トニ求メツ、之ガ助長機關トシテ商品陳列所ノ活動ニ俟ツコト日ニ多カラムトスルノ秋ニ方リ此記念ノ式典ニ陪スルヲ得タル洵ニ千歳一遇ノ感無クムハアラス

我出品協會ノ組織ハ言ヲ俟タヌシテ本所ノ事業ヲ翼賛シ且相互ノ親睦ヲ圖ルニアリ茲ニ聊カ記念物ヲ贈呈スルモノ蓋シ本日ノ喜ヲ頌チ共ニ事業ノ將來ヲ祝福セムトスル微衷ニ他アラス冀クハ本日ノ記念ヲシテ更ニ大ニ新ナラシメ以テ地方産業伸暢ニ資シ延テ國運ノ振興ニ貢献セシメラレムコト切望ニ堪ヘス所感ヲ陳ヘテ祝辭ニ代フト云フ

大正十一年六月四日

新潟縣商品陳列所出品協會

會長 長谷川 劍之允

祝電

二十周年ヲ祝ス

鹿兒島縣產業主事 森 景

光榮アル二十周年ヲ祝シ將來ノ發展ヲ祈ル

山口縣商品陳列所

光輝アル貴所ノ創立二十周年式ヲ祝ス

福島縣商品陳列所

二十周年ヲ祝ス

大阪府商品陳列所長 山口 貴雄

御盛典ヲ祝ス

廣島縣商品陳列所長 豊島 銳郎

二十周年ノ盛典ヲ祝ス

長崎市商品陳列所

功勞者表彰

右記念式に引續き出品協會總會に於て本所事業に對せる左記有功者の表彰式を行へり

一、創立以來引續き出品を爲し産業發展に功勞ありしもの



朽尾町 朽尾織物同業組合 山邊里村 小田長四郎 見附町 佐野庄吉  
 見附町 家坂興三郎 見附町 山谷喜助 同 小坂井權八  
 同 坂田藤五郎 小須戸町 小林勇吉 新潟市 仁木茂平  
 新潟市 大井猪之松 新潟市 田邊敬作 同 加藤勝太郎  
 同 水澤榮七 柏崎町 小山金平 村上町 小杉祐次郎  
 同 大黒善太郎 新潟市 小林又治郎 澤根町 本間琢齋  
 澤根町 眞藤眞山 燕町 玉川覺平 燕町 本間七藏  
 燕町 本間與作 三條町 山彌合名會社 新潟市 古山政治  
 新潟市 横山仙次 新發田町 佐藤常吉 相川町 三浦常山  
 相川町 伊藤赤水 新發田町 大武健吉 新潟市 半藤逸溪  
 新潟市 牧野信三郎 新潟市 松山松藏 同 松山松三郎  
 同 田中吉太郎 同 風間要吉 同 佐藤長藏  
 同 蒲田定四郎 關原村 川口龜一 乙 村 丸千齋油株式會社  
 同 小黒喜三郎 新發田町 藤川善成

二一六

一、創立に際し特に功勞ありし故人の追彰

山邊里村 故 小田長四郎 新潟市 故 寺井四平 新潟市 故 花輪伊喜太  
 東京市 故 寶輪源治 新潟市 故 小林又次郎 三條 故 山本彌平治  
 新潟市 故 牧野金五郎

一、本所に對し特に功勞ありたるもの

東京市 近藤 金彌 新潟市 清水 汲藏  
 一、直接陳列所又は出品協會事務に長く執掌し其功勞ありたるもの  
 勤績十五年二月 長谷川 鋼之允 勤績十四ヶ月 藤卷清次郎  
 同 十一年一月 若槻 覺知 同 九年十月 長谷川九八  
 同 九年六月 船山 ムツ

右表彰者總代の答辭左の如し

答 辭

本所創立二十周年ノ記念ニ際シ本會ハ茲ニ表彰ノ式典ヲ舉ケ予等揣ラス其選奨ニ浴ス  
 ルコトヲ得タルハ深ク光榮トシ感謝スル所ナリ



惟フニ産業ノ發達進歩ハ當局ノ指導獎勵其宜キヲ得ヘキコト言フ俟タスト雖當業者亦能ク其意ヲ諒トシ翼賛奮起ノ實ヲ舉ケスムハ決シテ其ノ目的ヲ貫徹スルコト能ハサルヘシ本會ト本所トノ密接ナル關係ハ之ヲ證シテ餘アリト稱スヘク本日ノ美舉亦是レ相頼リ相俟チタル融化ノ發露ニ他アラサル也要スルニ本邦産業ノ將來ハ其組織經營ヲシテ國際化セシムルヨリ急ナルハ莫シ予等微力敢テ當ラスト雖今後二層勵精努力シテ斯業助長ノ任ニ當リ以テ本會ノ盛意ニ違ハサラム事ヲ期スヘシ所感ヲ陳ヘテ答辭トスハ

大正十一年六月四日

表彰者總代 川 覺 平

記念事業

創立二十周年を記念する爲め寄附金を募集し左の事業費に充當することとせり  
 (イ) 縣下の工業並に商品陳列所に關する研究として「本所創立二十周年記念と回顧」の發行  
 (ロ) 永遠に記念する爲め商品陳列所構内に記念物造營

大正十二年九月十五日印刷  
 大正十二年九月二十日發行

〔非賣品〕

新潟縣商品陳列所出品協會

電話 一六八八番

印刷者 新潟市旭町一番町 森 長 敬

印刷所 新潟市西堀前通七番町 新 潟 新 聞 社



1421  
750

Faint, illegible text or bleed-through visible on the right page.







終